

令和7年度

# 「運営に関する計画」

最終

大阪市立三先小学校

令和8年3月

学校教育目標 **子どもの笑顔があふれる学校**

1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

令和7年度は、全学級12学級、特別支援学級5学級・通級学級1学級でスタートした。本校児童は、明るく朗らかに日々学習や運動に取り組み、友達や異学年の児童にも温かく寄り添うことができる児童が多い。指導者の指示により行動することができる一方、自ら考え、主体的に行動することに不安や意識の不足がみられる場面が少なくない。一人一人の児童が自分の考えをもち、表現し、互いを認め合って過ごすことができる学校づくりに教職員が一丸となる。学校教育目標の「子どもの笑顔があふれる学校」の実現に向け、育みたい子どもの像を「・自分も人も大切にする子 ・考えをもつ子 ・表現し高め合う子 ・主体的に行動する子」として教育にあたる。

**【安全・安心な教育の推進】**

**【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】**

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上とする。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

**【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- ・小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、前年度より0.01ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、前年度より0.01ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は45%以上にする。

**【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】**

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

**【安全・安心な教育の推進】**

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- ・令和7年度末の校内アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「よく当てはまる(当てはまる)」と回答する割合90%以上を維持する。
- ・令和7年度末の校内アンケートにおいて、「学校に行くのが楽しい」と回答する割合90%以上にする。
- ・令和7年度末の校内アンケートにおいて、「自分には、良いところがある」と回答する割合85%以上にする。

#### **【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- ・小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 45%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 70%以上を維持する。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上を維持する。

#### **【学びを支える教育環境の充実】**

- ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。
- ・教員の児童の ICT 活用を指導する能力に対する肯定的な回答の割合を 85%以上にする。
- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。

### 3 令和 7 年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】に関しては、概ね目標を達成している。特にいじめに対する意識は大きく高まっている。不登校に関しては、該当する児童が少し増えている。不登校については、原因がはっきりとしないことが多く、保護者とつながりを切らないようにしながら区役所等関係諸機関と連携しながら対応している。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】に関しては、各々の取り組みは成果を上げている。それにより、最重要目標の達成状況も成果を上げている。特に外国語活動に関しては、英語部とともに取り組みを進めて、成果を上げた。一方で、学力経年調査等で見える問題に対する正答率は昨年度との比較では上昇しているものの、対市や対全国比で見ると低い状態が続いている。

【学びを支える教育環境の充実】に関しては、各々の取り組みに関しては、概ね目標は達成できている。情報モラル教育に関しては、昨今、いじめの動画を動画サイトにアップするなど、問題になっている。本校でも日々、学級での指導は行っている。また、新たに教材の準備を進めたが、それを使用した指導まで進めることができなかった。来年度からは年度当初から指導が進められるようにしていく。

大阪市立三先小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。 【R7:83.9%（市83.0%） R6:79.8%（市81.5%）】</li> <li>・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 【R7:1.6% R6:0.6%】</li> <li>・令和7年度末の校内アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「よく当てはまる(当てはまる)」と回答する割合を90%以上を維持する。 【R7:94% R6:96%】</li> <li>・令和7年度末の校内アンケートにおいて、「学校に行くのが楽しい」と回答する割合90%以上にする。 【R7:90% R6:92%】</li> <li>・令和7年度末の校内アンケートにおいて、「自分には、良いところがある」と回答する割合85%以上にする。 【R7:86% R6:83%】</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【1、いじめへの対応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめについて考える日に学級で指導するだけでなく、年間を通し、機会を設けて児童にいじめがいけない事だと指導をしていく。</li> <li>・日常の言葉遣いを振り返る「言葉についての振り返り週間」を設け、普段つかう自分の言葉を振り返る機会を設ける。（生活指導）</li> </ul>	A
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校アンケートにおける「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う。」の項目について、肯定的な意見を85%以上にする。</li> <li>・児童の振り返る場面を増やすため、学期に一度アンケートを実施する。</li> </ul>	
<p><b>取組内容②【2、人権を尊重する教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権意識を高め、相互理解を育むために発達段階に応じた教材の開発に努め、系統性のある授業を計画し実践する。（人権教育）</li> </ul>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度末の児童アンケートで「困っている友だちに声をかけたり、助けたりしている。」「自分も周りにいる友だちも大切にしている。」の項目において、肯定的な回答をいずれの学年も各80%以上にする。</li> </ul>	
<p><b>取組内容③【2、人権を尊重する教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たてわり班活動や日々のあいさつを通して、人のつながりをつくとともに、支え合いを深める活動に取り組む。（児童会活動）</li> </ul>	A
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度末の児童アンケートで「みんなで協力してたてわり班活動をすることができている。」「自分からあいさつしている。」の項目で肯定的な回答を90%以上にする。</li> </ul>	
<p><b>取組内容④【2、インクルーシブ教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導・支援計画を活用し、児童理解を深め、教職員全体で連携し合い、指導の充実を図る。</li> <li>・令和7年度の通級指導の実施にあたり、年間計画の作成や学びの場の充実など指導</li> </ul>	B

<p>体制の構築を図る。また、教職員全体に研修を行い、発達障がいなどのある児童の学びの場の充実に向けて共通理解を図る。( インクルーシブ教育 )</p>	
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回指導や特別支援研修会を年2回以上行い、教職員全体で連携し、指導の充実を図る。</li> <li>・低中高学年部会で学期に1回以上、個別の指導・支援計画を活用しながら支援の手立てについて共通理解を行う。</li> </ul>	
<p><b>取組内容⑤【規律心の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を守って行動できるようにする。( 生活指導 )</li> </ul>	
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度末の児童アンケートにおいて「時刻を守って行動している。」の項目において、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。</li> </ul>	B
<p><b>取組内容⑥【1、防災・減災教育の推進、安全教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害発生時に「自ら判断し、安全に避難・行動できる力」を育むため、発達段階に応じた防災指導を計画的に行う。</li> <li>・地域や関係機関と連携し「自助・共助」の視点を含んだ防災教育を推進する。 ( 防災・減災教育 )</li> </ul>	A
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度末の児童アンケートにおいて「災害がおきたときに、どのように行動すればよいかを知っている。」の項目において、肯定的な回答をする児童の割合を95%以上にする。</li> </ul>	
<p><b>取組内容⑦【1、防災・減災教育の推進、安全教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の発達段階に応じて防災・防犯指導を系統的に行い、「自ら判断し、安全に行動できる力」を育む。</li> <li>・避難訓練やロールプレイ等を取り入れ、「もしも」の場面でも冷静に対応できる実践的な力を養う。( 防犯教育 )</li> </ul>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度末の児童アンケートにおいて「不審者が学校に侵入したとき、どのように行動すればよいか知っている。」の項目において、肯定的な回答をする児童の割合を95%以上にする。</li> </ul>	
<p><b>取組内容⑧【2、キャリア教育の充実】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・系統立てた学習を進めるため、低中高学年それぞれの目標を中心に学習を進める。 ( キャリア教育 )</li> </ul>	A
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度末の児童アンケートにおいて、「人の役に立つ人間になりたいと思う。」の項目において、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。</li> </ul>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>①「いじめ・いのちについて考える日」に児童朝会や各学級で指導することができた。道徳の授業でもいじめがいけないことや友達を大切にすることを指導した。また、児童間でのトラブルが起きた時、個々で対応せずに管理職と情報を共有し、対応することができた。学校アンケートにおける「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか。」の項目について、肯定的な意見が100%と指標の85%以上を大きく上回ることができた。</p> <p>②令和7年度末の児童アンケートで「あなたは困っている友だちを助けたり、声をかけたりしていますか。」「自分も周りにいる友だちも大切にしていますか。」の項目において、肯定的な回答の割合は各々94%、97%と指標を上回った。</p> <p>各学年で発達段階に応じた教材の開発に努め、系統性のある授業を計画し実践することができた。その取り組みを各学年ごとにレポートにまとめ、閲覧する機会を設けることで共有することができ、系統立てた授業作りの手立てになったと思われる。このような各学年の取り組みや日常の指導により、上記のような結果につながったと考える。</p>	

児童会活動の一環で「ありがとう週間」に取り組んだ。困っている友達に声をかけ、ありがとうを伝え合うことで、自分も他者も大切にする、認め合うという姿勢につながったのではないと思われる。

- ③たてわり班活動として、あいさつ運動を行った。  
令和7年度末の児童アンケートで「みんなで協力してたてわり班活動をすることができている。」の項目において、肯定的な回答の割合が97%、「自分からあいさつができる。」の項目において、肯定的な回答の割合が91%と、どちらも指標を上回った。
- ④巡回指導や特別支援研修会を今年度2回以上行い、教職員全体で理解を深めた。学級での指導の仕方や個々の児童の対応などを知り、指導の充実を図ることができた。  
低中高学年部会で学期に1回以上、個別の指導・支援計画を活用しながら支援の手立てについて共通理解を行った。そのため学期ごとの児童の変容を知ることができ、支援の手立てとなった。
- ⑤登校時刻に遅刻する児童に個別で声掛けをおこなった。遅刻においては、家庭の協力が無いと難しい部分もあるが、各担任が粘り強く声掛けをすることで、遅刻せずに登校できることも増えてきた。  
時間の大切さを意識させる指導を各学級で行った。今年度から休み時間が10分から5分に変更されたことで、移動教室で5分前行動などが難しいことがあった。児童アンケートで「時刻を守って行動している。」の項目では、肯定的な回答をする児童の割合は91%で指標の90%を上回った。
- ⑥児童アンケート「災害がおきたときに、自分がどう行動すればよいかを知っている。」の項目において肯定的な回答をした児童の割合は98%となり、指標である95%を上回った。これは、避難訓練をはじめ、防災に関する事前指導や振り返り、学級での継続的な声掛けなどを通して、児童が「自分事」として災害時の行動を考える機会を積み重ねてきた成果であると考えられる。
- ⑦児童アンケート「不審者が学校に侵入したとき、どのように行動すればよいか知っている」において、肯定的な回答をした児童の割合は80%にとどまり、指標である95%を下回った。一方で、「あまりあてはまらない」と回答した児童も一定数見られ、不審者対応については、具体的な行動イメージが十分に定着していない児童がいることが明らかになった。
- ⑧「総合的な学習の時間」などを通して、各学年の発達段階に応じた指導を行った。令和7年度末の児童アンケートにおいて、「人の役に立つ人間になりたいと思う。」の項目において、肯定的な回答の割合が98%と指標を大幅に上回った。

#### 次年度への改善点

- ①今後も心の天気を活用し、児童の状況を把握し、声掛けをする。また、いじめの早期認知、対応についての再確認をする。情報モラル教育を通して、動画の拡散等いじめにつながる行為について伝えていく。
- ②発達段階に応じた教材の開発に努め、系統性のある授業を計画し実践していく。  
学習時間以外の日常生活の中でも、人権意識を高め相互理解を育むことができるような指導を継続していく。  
「あいさつ週間」のような自己肯定感を高めたり、他者理解を深めたりするような活動を児童会活動の一環として計画、運営していく。  
2027年度に港区の人権教育発表校にあたるので、取り組み内容について考えていく必要がある。
- ③たてわり班活動を通して児童同士のつながりができている一方、あいさつについては小声でのあいさつやうつむき加減でのあいさつをする児童が散見されるので、継続して指導していく必要がある。
- ④年度当初に研修（子ども理解・通級指導）等の計画を立て、継続して共通理解を深めていく。  
通級指導では、引き続き年間計画を立て、通常学級担任や教科担任と必要な情報を共有し合う場を設定する。  
特別支援学級と通常学級（通級児童含む）の連携を密に行い、個別の指導・支援計画を活用

しながら児童理解を行う。

- ⑤子どもの主体性を生かし、自分たちで考えて行動できるように指導していく。また、時間を守ることができた場面のフィードバックを積極的におこなう。
  - ⑥現在の高い意識を維持・定着させるとともに、状況に応じた判断力をさらに高める指導を継続していく必要がある。
  - ⑦不審者対応については、訓練や一斉指導に加え、ロールプレイ形式での学習、学級単位での場面想定の話し合い、「もしも」の場面を想定した具体的な行動確認など、児童が主体的に考え、行動をイメージできる取り組みを充実させることが求められる。
  - ⑧キャリアパスポートや社会見学等、学年に応じて計画的に実施した。来年度以降も継続していく。
- 今回のアンケートで、児童が人の役に立つ人間になりたいと思っていることが分かった。来年度から、一段階次の「人の役に立つことができている。」の項目を付け加えることも検討が必要である。

大阪市立三先小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。 【R7年度対市平均：4年0.8P↑, 5年1.2P↑, 6年1.5P↓】 【R6年度対国平均：4年0.07P↓, 5年0.01P↓, 6年0.04P↓】</li> <li>小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。 【R7年度対市平均：4年2.1P↑, 5年3.2P↑, 6年0.3P↑】 【R6年度対国平均：4年0.08P↓, 5年0.03P↑, 6年0.0P】</li> <li>小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を45%以上にする。  【R7年度：53.4%（肯定的：86.8%）（市41.6%） R6：38.5%（市：40.4%）】</li> <li>小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合70%以上にする。  【R7年度：78.4%（市69.2%） R6：73.9%（市68.9%）】</li> <li>小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。  【R7年度：92.1%（市75.9%） R6：73.9%（市68.9%）】</li> </ul>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【5、体力・運動能力向上のための取組の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科・行事・たてわり班活動・休み時間等、教育活動全体を通して、児童の体づくり・体力向上に取り組む。（体づくり・体力の向上）</li> </ul> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度末の児童アンケートにおいて、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きである。」に対して、最も肯定的な回答する児童の割合を70%以上を維持する。</li> </ul>	B
<p><b>取組内容②【5、健康教育・食育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>給食の前、休み時間や掃除の後に「手洗い・うがい」をし、新しい生活様式への対応を推進する。（保健）</li> </ul> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度末の児童アンケートにおいて、「給食の前、休み時間や掃除の後に手洗い、うがいをしている。」の項目で肯定的回答を90%以上にする。</li> <li>栄養教育推進事業を活用し、全学年2回／年、栄養教諭による食に関する指導を行う。</li> </ul>	A
<p><b>取組内容③【4、「主体的・対話的で深い学び」の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童が主体的に考え、自ら表現する力を付けることができるように、各教科・領</li> </ul>	A

<p>域の横断的なカリキュラムのもと、児童が協働的に学ぶ場を設定した授業づくりをする。</p> <p>・総合的読解力の時間を確実に実施し、読解力の向上を図る。（ 学力向上 ）</p>	
<p><b>指標</b></p> <p>・令和7年度末の児童アンケートの「学習中、友だちとの話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている。」の項目で、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を45%以上にする。</p> <p>・令和7年度末の児童アンケートの「総合的読解力の時間の学習を通して、資料や情報を読み取って要約したり、自分の考えを整理して表現をしたりする方法を理解することができた。」の項目で、肯定的な回答をする児童の割合を60%以上にする。</p>	
<p><b>取組内容④【4、英語教育の強化】</b></p> <p>・週3回のイングリッシュ・タイムと年間時数に沿った外国語科・外国語活動を計画的に実施し学習の充実を図る。（ 英語教育 ）</p>	A
<p><b>指標</b></p> <p>・令和7年度末の児童アンケートにおいて、「外国語(英語)を使ったコミュニケーションは楽しい。」の項目で、肯定的な回答をする児童の割合を70%以上にする。</p>	
<p><b>取組内容⑤【8、生涯学習の支援】</b></p> <p>・司書と連携して引き続き学年の本棚を整理し、学習に関連した読書活動の推進を図る。（ 学校図書館 ）</p>	B
<p><b>指標</b></p> <p>・令和7年度末の児童アンケートで、「本を読むことが好き。」の項目において、肯定的な回答を80%以上にする。</p>	
<p><b>取組内容⑥【7、教員の資質向上・人材育成】</b></p> <p>・日々の授業にすぐに生かすことができるような研修を立案・計画をし、実施することで教員の指導力向上をめざす。（ 教員の指導力向上と校内研修の支援 ）</p>	A
<p><b>指標</b></p> <p>・授業を行う全教員が指導力を向上できるように、1人1授業を行う。</p> <p>・「教科・領域の指導法」「ICTを生かした指導法」を中心とした研修会をする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>① 縄跳びや長距離走の集会を学校全体で取り組むことができた。学年の取り組みでも、スケート教室に参加したり夢授業（元アスリートによるスポーツ教室）を申し込んだりするなど、学校として運動が好きになるきっかけを与える取り組みを実施することができた。各学級においても体育科を中心に教材研究を深めて授業に取り組んだり、6年生は中学校の先生と連携し指導にあたりたりするなど工夫して学習を行うことができた。児童アンケートの「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きである。」の項目で最も肯定的な回答の割合は76%と指標を上回った。</p> <p>②児童アンケート「手洗い・うがいをしている」の項目で肯定的回答の割合は93%で指標を上回った。「手洗い、うがい」は各担任からの日頃の声掛けがあり、子どもたち自身もよくできていた。栄養教育推進事業では全学年年間2回の食に関する指導を行うことができた。</p> <p>③令和7年度末の児童アンケートの「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の項目で、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は54%だった。学年ごとに見ると、高学年になるほど割合が低くなっていた。高学年になるほどアンケートの意味を理解し、考えを深めたり広げたりすることができていると自信をもって言えるまでにいたっていない児童が多くなるのではないかと考える。</p> <p>令和7年度末の児童アンケートの「総合的読解力の時間の学習を通して、資料や情報を読み取って要約したり、自分の考えを整理して表現する方法を理解することができま</p>	

したか。」の項目で、肯定的な回答をする児童の割合は82%であった。これも高学年になるほど割合が低かった。今年度から本格的実施だったため、高学年になるほど内容が難しかったからと考える。

- ④ 計画的にイングリッシュ・タイムと年間時数に沿った外国語科・外国語活動の学習をすすめた結果、学校アンケートの「外国語(英語)を使ったコミュニケーションは楽しい。」の項目で、肯定的に回答した児童の割合は91%であった。各学年の実態に合わせた題材の工夫や必然性のある言語活動の場を設定することで、児童が主体的にコミュニケーションを図る楽しさを実感できる授業づくりをすることができた。
- ⑤ 司書や委員会児童と協力して、図書室の整備、読み聞かせ、新しい本の紹介、出張図書館や紙ひこうき大会等のイベントの充実に取り組んだ。結果としてはアンケートの「本を読むことが好き。」の項目において、肯定的な回答の割合は80%であった。中間結果時よりも上がって、学校全体として目標には達したが、学年により結果に差が出ている。
- ⑥ 英語科を中心に研修を行い、教材研究などに生かすことができた。また1人1授業を行う中で互いの授業を見合うことで、指導法の交流ができ、指導力の向上につなげることができた。

#### 来年度への改善点

- ① 学校全体で取り組んだ行事は、振り返りを生かして来年度よりよいものを実施できるようにする。幅広い内容で職員研修を取り入れ、授業の質の向上にも取り組む。
- ② 栄養教育推進事業を引き続き行い、食に関する知識を身に付けていく。  
給食、食育だより、保健だよりを配付時に読む時間を設けるなど活用し、学級懇談会などで各家庭にも呼び掛ける。今後は「スマートフォンの使い過ぎ防止」や「早寝早起き」、「姿勢」などに関する目標を取り入れたい。
- ② さらに主体的に学ぶ力がつけるために、学習をするときに板書を書き写したり、自分の考えを書いたりするだけでなく、友達の意見や考えをノートにメモするといった活動を入れていくようにする。  
高学年の学習でも、内容によっては3年生の課題を取り入れるなどして、段階的に資料や情報を読み取って要約する力を付けていくようにする。
- ④ 今後も低学年からの既習事項を系統的に積み上げ、言語活動を通して相手に配慮しながら工夫して伝え合おうとする児童の育成を目指す。
- ⑤ 引き続き、読書に興味を持ってもらえる取り組みを続けていく。新しく購入した本が配架された時に、児童がより興味を持って読書をしている様子が見られる。ここ数年、新しい本は図書室に配架していた。そこで来年度は、各学年の児童の希望や教員の意見も聞き、必要に応じて学級文庫を新しくしていき、学級での読書も充実させたいと考えている。
- ⑥ 今年度は、英語科に絞って研修を進めたので、来年度は他教科の研修も進めていく。

大阪市立三先小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業日において、児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 【R7:68.2% R6:25%】</li> <li>教員の児童・生徒のICT活用を指導する能力に対する肯定的な回答の割合を85%以上にする。 【R7:100% R6:100%】</li> <li>年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。 【R7:100% R6:100%】</li> </ul>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【6、ICTを活用した教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報モラル教育年間指導計画に沿って、系統立てて指導する。</li> <li>プログラミング学習年間指導計画に沿って、指導する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">（ 情報教育 ）</p>	C
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報モラル教育を身につけられる教材（独自教材）を用意し、指導後のアンケート内の「情報モラルの理解が深まった」という項目において肯定的な回答を90%以上にする。</li> <li>プログラミング学習年間指導計画に沿って指導ができているか経過観察を行う。</li> </ul>	
<p><b>取組内容②【6、データ等の根拠に基づく施策の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「心の天気」等のデータを活用し、いじめ・不登校の未然防止・早期発見に努める。</li> </ul> <p style="text-align: right;">（ 保健 ）</p>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1日2回心の天気を入力できているか学年間で確認することで、授業日において児童の8割以上が学習者端末を活用した日数を、年間授業日の50%以上にする。</li> <li>1日1回教務主任や養護教諭が、学校管理者ページから相談内容を確認する。</li> </ul>	
<p><b>取組内容③【7、働き方改革の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>業務を協働的に進めることで、過密や偏りを少なくし、効率化を図り勤務時間の短縮や、健康維持への意識を高める。</li> </ul> <p style="text-align: right;">（ 福利厚生 ）</p>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>月1回校務分掌部会を、話し合う内容を設定することで活性化し、特定の教員が業務を抱え込まないように工夫できるようにする。また、参加する教員が重ならないよう時間を調整するなどの配慮をする。</li> </ul>	
<p><b>取組内容④【施策6、ICTを活用した教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研修等を通して、協同学習支援ツールを活用した授業改善を図る。</li> </ul> <p style="text-align: right;">（ 情報教育 ）</p>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>業務内でもGoogle Classroomを活用することで、教員の児童のICT活用を指導する能力に対する肯定的な回答の割合を85%以上にする。</li> </ul>	

- ・上記の指標に伴った ICT 研修を年 1 回以上実施する。

#### 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 4 月に出された情報教育やプログラミング学習の年間計画に沿って各学年指導にあたった。年度末までに指導の進捗状況をアンケート形式にて行う予定である。また、情報モラルを身につけるための教材の準備はできたが実施には至っていない。
- ② 授業日において児童の 8 割以上が学習者端末を活用した日数は 1 1 月時点で年間授業日の 69.5%と指標の 50%を上回っている。心の天気については各学年、各学級において入力状況に差がある。
- ③ 月に 1 度の公務分掌部会が議題についての確認の場となることで、事前に資料を用意することができるなど、余裕をもって提案することができた。勤務時間については、1 2 月時点の平均時間外勤務時間を比べるとわずかであるが改善されている。(今年度：2 2 時間 1 9 分・昨年度：2 2 時間 3 3 分)
- ④ 今年度 7 月に「カフト」など児童の発表について等の ICT 研修を行うことができた。また、教員の児童生徒の ICT 活用を指導する能力に対するアンケートを年度末に実施する予定である。

#### 後期への改善点

- ① 情報モラルを身に着けるための教材を活用し、児童に「情報モラルの理解が深まった」と実感できるようにする。
- ② 心の天気の入力において、校内で学年、学級間のばらつきがなくなるよう取り組んでいく。
- ③ 引き続き、教職員間で声を掛け合って、勤務時間の改善を進める。
- ④ 今後も校内の教員のニーズに合った ICT 研修を行うことで、教員の児童の ICT 活用を指導する能力を向上させる。